

課題⑤

オーディション対象..実業家、経営者

設定..バーの経営者

場所..企業の社長室

扉を叩く音（コンコン！）

「どうぞ。」

女性店員を満面の笑顔で迎え、ソファーに座るように促す。

「（何か言おうとする女性の言葉を遮るように）妹はね、小さいころから活発でね。胸のポケットから写真を一枚取り出すと、女性の前に差し出す。日本人離れした鼻筋の通った清楚な美人が写っている。

「20歳のときに、大企業の子弟と良い仲になつてね。」

タバコに火を点けると、ソファーから腰を上げ、窓の縁にもたれかかる。軽くタバコを吹かし、外の景色に目をやる。

「すぐに男の子ができる、そりゃあもう、幸せそ�だつたよ。でも、旦那がすぐに戦争に出てしまつてね…。未亡人には冷たいものよ。家に居られなくなつてね。器量が良かつたから…、それなりに生活費を稼ぐことはできたけど、そんなもの、何年も続くもんじやない。」

黙つて話を聞く女性。

「子どもといつしょに姿を消してしまつて。ちゃんと見ていてやれなかつた…。」

今にも灰が落ちそうなタバコを灰皿に押し付け、ソファーに戻る。

「ここにいる子たちは、みんなそれぞれに事情を抱えている。器量のいい子が得をする世の中かもしれないけれど、ここは体を売る店とは違う。でもね、あの子たちも、それなりのお金がないと、次に何もできないんだ。」

「（黙つている女性に）もう少しだけ頑張つてみないか？」